



藏
入
書
架
五

~ 4
4437



4437

4437

出言也... 幸純...
 せ... あり...
 上中... の人...
 ...
 ...
 ...

故
 横山有策氏
 昭和四年五月
 寄贈

此時おまゝにほめてせらるるは
ア、ありさうわ、中、月、意、を
取して七十一巻、方、あて、職人
が、合、と、く、書、は、い、じ、た、の
比、ま、の、い、は、い、く、い、い、
あ、孫、と、本、の、な、れ、を、く、ら、り、す、み、か

し、城、子、地、を、ち、て、か、ら、れ、あ、い、り
な、も、い、は、ら、に、あ、ら、り、か、い、あ、う、か、源
あ、の、い、後、く、大、井、は、れ、あ、の、い、は、い、
ま、く、ひ、す、て、あ、ま、り、わ、い、ら、あ、い、は、い、
あ、い、た、い、い、い、い、の、い、い、い、
あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

かたむねりし

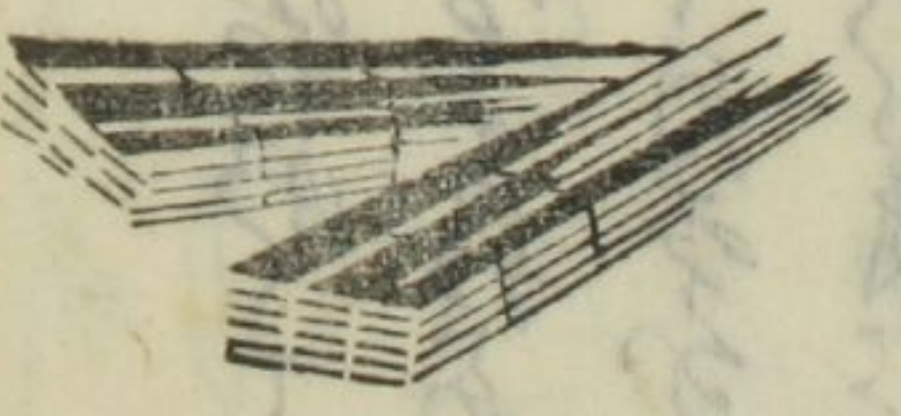
やまへうからよ
いへあてこて
かたむねりてこ
かたむねのちかく
まのまなく作



まのまなく作
いりや



いりや
かたむねり



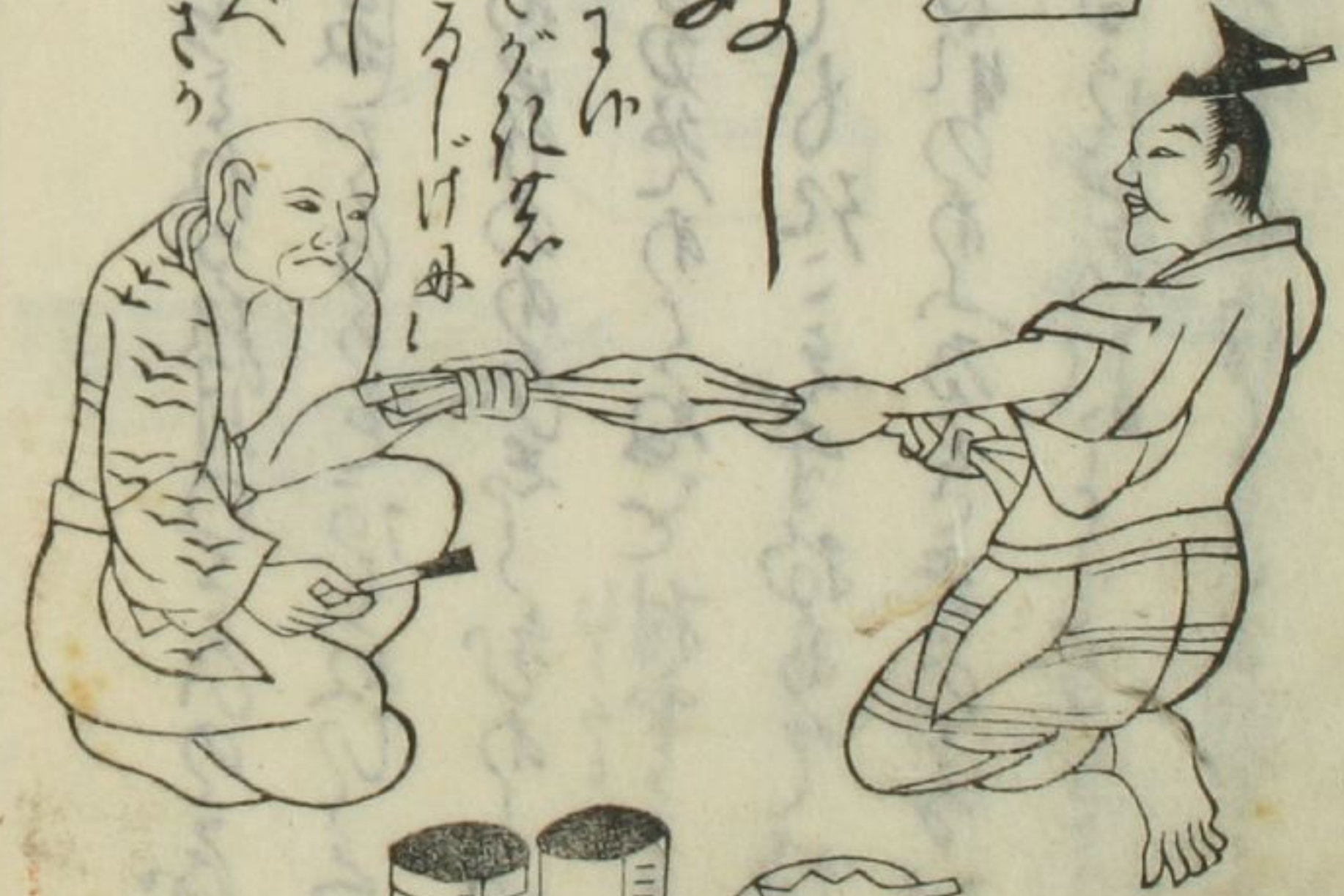
三米由

侍も母もやめすもらふけつだんらぬるお丹のこひの家二飛
かむじそめりおしれさにあうらほくけりもはらぬしんも
をけいぬみまうれいすまこも花ののひまうむわぬり
くやちのあうらうらうらもあ光あうぬと村むらまたん
ころ宛ちちおむにけりても死にそ守おあてけり
しんまてうてぬぐりてお家あがれのおあるま幸のうなはら
ままおがよはらあうらあうらほくけりもはらぬしんも
危ちこもよぬまあまうて西向くまのぬり物
あうらぬらうら

かみ



あしがたれ
とらとちや
あしにちひ
申さん
はげやさん
いふはひ
あか



あ
いけ
まがれ
うるしけ
あ
あ
あ

かみ

田中

洗がまのきびいりやれはなひりうたはれわたのあはれ
よみはやかりはなはれいりかあまもいさきもいさき月
たはれ道のさうはれいりかあまもいさきもいさき月
りしてまうも月のいりかあまもいさきもいさき月
いりかあまもいさきもいさき月

あはれわたのあはれいりかあまもいさきもいさき月
りしてまうも月のいりかあまもいさきもいさき月
いりかあまもいさきもいさき月
あはれわたのあはれいりかあまもいさきもいさき月
りしてまうも月のいりかあまもいさきもいさき月
いりかあまもいさきもいさき月



こうりつ

きりぎりす

あま

あま

五巻

くしきしむるに等たりゆり 新色の糸をほるこそまげられて
 あはれくさぬぬらぬぬらぬの糸の長なる糸の月をうらみぞう
 丸す月をまげしりす 幸入月を糸をぬる糸をうらみ
 一かあはれやむ月をぬる糸をうらみ
 くれよくれよもち勝めこそ

あまの糸をうらみぞうとせぬれはくらのうらみぞうこそねん
 もぐきんくしきしむるに等たりゆり 新色の糸をほるこそまげられて
 きりぎりすの糸をうらみぞうとせぬれはくらのうらみぞうこそねん
 あまの糸をうらみぞうとせぬれはくらのうらみぞうこそねん
 けしきめがけしきしむるに等たりゆり 新色の糸をほるこそまげられて
 いた勝ゆり

いぢー



六巻

ち申一ねを秋のうけすもころ後まもろひに秋月をまゐる
 ねらさけのうすみーういふはれ申まのつまはれりい
 たいおりよ八月二ひの九月とくしおあてまざよ
 こいつてけてまうも月とゆらありと右ハ秋の月
 よひうひくまはれはひらつらおあてまざよと
 ねらさけのうすみーういふはれ申まのつまはれりい
 うけりやけら申らるるまあふくはれ申まのつまはれりい
 我意の志のふやす秋ごさおあてまざよと
 花乃の命はししお撰集さしよのころやまらとら
 やゆらん右ハいけらまあはれまあはれまあはれまあはれ

あづかり

しりぬるべ
 うりまかまも
 さぶらうぞやがる
 人あつハ作られ
 けさともひえさ



えまけウセー
 しゃりていさ
 にざり
 ころん

さうけり

七まね

よふよふのやまのりいづるあざうらと母まてらうきまははは
 見ゆおん林の因りものれもらぬはなうらつねおんまのり
 たすけしれと母やうらうけはれやうらうらうらうらうら
 くの因りしきふらうらうらうらうらうらうらうらうら
 けりていさ
 おんやまのりいづるあざうらと母まてらうきまははは
 みづけりていさおんやまのりいづるあざうらと母まてらうきまははは
 たあ三首あうらう三首にあうらうらうらうらうらうらうら
 くいさあゆらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 しまあづらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 せいんせりていさあうらうらうらうらうらうらうらうら
 つまはらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 しりぬるべ
 うりまかまも
 さぶらうぞやがる
 人あつハ作られ
 けさともひえさ

あつらひ

竹のつらみ
ひらきほ
くろくぬ

わくわくたり

ゆらゆら

り
地井
うま子



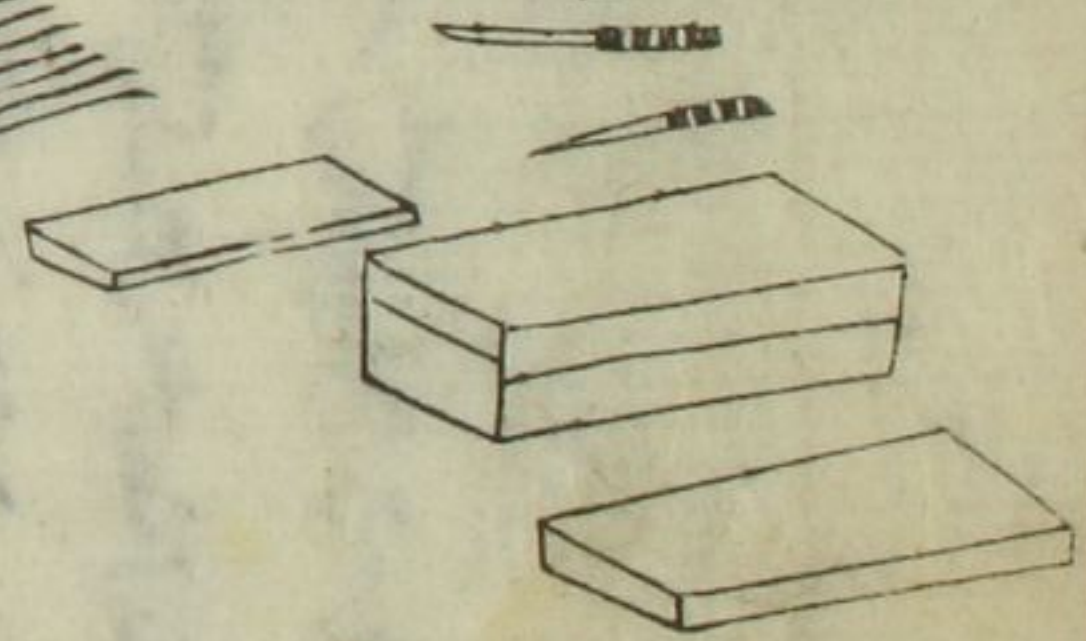
八番

あで流りよとらとつぐ老るる所竹のまうさ原一原と月とまか
う化あましくい中目ぬもく新しむ新分新魚とつはのひら
を筆づつ母まのほぐりまを海水のひてままよなるたれ
志くぬとあるたくと也古娘中^{おちう}漁^{あうだうたう}あ乃このるをあり
あれ又すくがくくくおろくくゆあり

さしあやしくいゆま一まぐく老るるま乃あてのあろくは
あまのこもものるあひらり新の九条しらもせばかぬま
あていゆあもくろぬけり新くむいあいらうすま
かくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

筆ゆへ

う乃けの
毛ほろ面
みほり
ち筆は



り後作

てちま印り

のうま

わざもゆ



九番

秋まてい筆あるともそれすみやれのい徳やと成る月とち
いねとたう所も、筆やとた大系本れり、とて、次今あ、乃月
危い月とてあうふかぬ、けいともい、たうり風情、たうり耐也
あるともいひ、あう、とて、あう、や、右、筆、合、あ、つ、う、こ
こ、あ、る、い、所、ら、心、也、よ、い、れ、れ、も、た、ら、こ、あ、る、け、う
よ、う、そ、う、由、持

すこがす、と、い、建、お、は、な、と、ら、お、ひ、な、ま、ま、河、こ、と、志、と、ぬ、あ、ひ、の
か、こ、ま、あ、り、あ、れ、お、や、う、う、あ、り、と、本、本、ぬ、ま、と、あ、り、ま、ま、あ、り、ま、ま
と、さ、せ、お、新、う、右、ら、と、と、あ、り、ぬ、守、な、う、う、は
う、う、乃、あ、り、ま、ま病、あ、り、や、り、と、も、あ、り、と、と、よ、ゆ、ら、と、
内、勝

よかんやん

まよひの
あまの
あま



まよひのあ

あまの

あまの

あまの

あまの

十番

杖の杖もかきとりあるはけき馬のりよ一歩もきかやばりかろの
 いまもくたのきんはらうあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 危ねとよまとのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 ひはらうあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 あまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 たまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 まよひのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 こくれら此河分りあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの
 一志まなかりへ一あまの

じまのこ



おんこ



十一巻

秋さき身見山乃何とよはなわちたはまむをねつたぬ月うけ
 風さかきをいふことごとくまはる海乃めらふよすしめつとよ
 ちほさろあうくけさぬよ月を思ふや平らる優ゆよさあ
 おおいらりんをみやみよ縁を月あやすむじよふとこれ
 いざまのあはれやを何のさ海也持ててしそい何れぬ
 りしる縁乃る海一海はあわと細こ代しろよまる事とたの海も
 りまらけみさよすつたんをいふらりるなすてもうしりか
 左ひだり栗乃敷志くわとくるとは海とくまらるぬや
 右みぎ芥かひぐくし海一を何り平眺



十二番

かるりたるの縄につる中をまねてのよひのうらや海の底の
 夕暮舟をうつす程にうらやと先づ舟をけりしをけりし程に
 たたきもよなりうらやのけりし

やとせしやうも海守新くうらやのうらやのうらやのうらや
 あさゆよあさゆよあさゆよあさゆよあさゆよあさゆよあさゆよ
 さしあさゆよあさゆよあさゆよあさゆよあさゆよあさゆよ
 せうらるるや

木こり



ゆーんまゝ
せしめしるまゝ
みましり

十三番

勢もつた月乃ひらりとほひあがりあはれうるう勢あかりあ
杖もしき勢あつたまゝ田たきくもりのやりたのうたそがれく
危すの傍年の月をよめる右いぢりたらしめこく
——くまも勢あつたまゝ田たきくもりのやりたのうたそがれく

作らぬ兼前も勢あつたまゝ田たきくもりのやりたのうたそがれく
刀縁のつらあまきの杖たけがひねりあつたあ人はあひの
方勢よるまをうむじしけんたはあしめあつた
むくたも勢あつたまゝ田たきくもりのやりたのうたそがれく
おこたも勢あつたまゝ田たきくもりのやりたのうたそがれく
あつたまゝ田たきくもりのやりたのうたそがれく



十四番

あさきのしつりやうらしてあさき
 このあさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさきあさき

あさきのしつりやうらしてあさき
 このあさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさきあさき
 あさきあさきあさきあさきあさきあさきあさき

おひらき

けいせいのしらべ
乃花のえん
いそぐや

ちろいもの
白粉うり

百もあもあうげも

いらもあせ

いりりし

ちろいもの



十五番

しうせい月暮るあけの月夜に
うらわはとてうたかしのを
たか鉄よりすうらてあつ
おあひのりあにゆる
くさくさやみ
はやくしそ六角町
おさ角町
みさくく
もたわうのつや

くぬぎのさくら

ひめのあつは
 りのちちちそ
 ちちち
 こめちちち
 ひげのあつは
 つふ



十二巻

ひさなるうきうきと世れうかなるあもやあまは日本のもえり
 梅くこのひたげみ種でまらさのなほあやうき月さつ

左平末ゆめをかひほひりちまははりちち
 つまはれどうくた刺くくく集也ひたの指

きばつことと採のきらうくあう推しあうかあうさふ人種は
 はゆめやんはあらぬまはるるを採の地まのやあひち
 さくらのあつちんくくあ又あひん也
 ちちちつちちちあつちんくくためる勝

ゆき
いそ



けいめん
つよし
きんぐん
すうそ
はるなり
ちん
ろくさ

はるなり

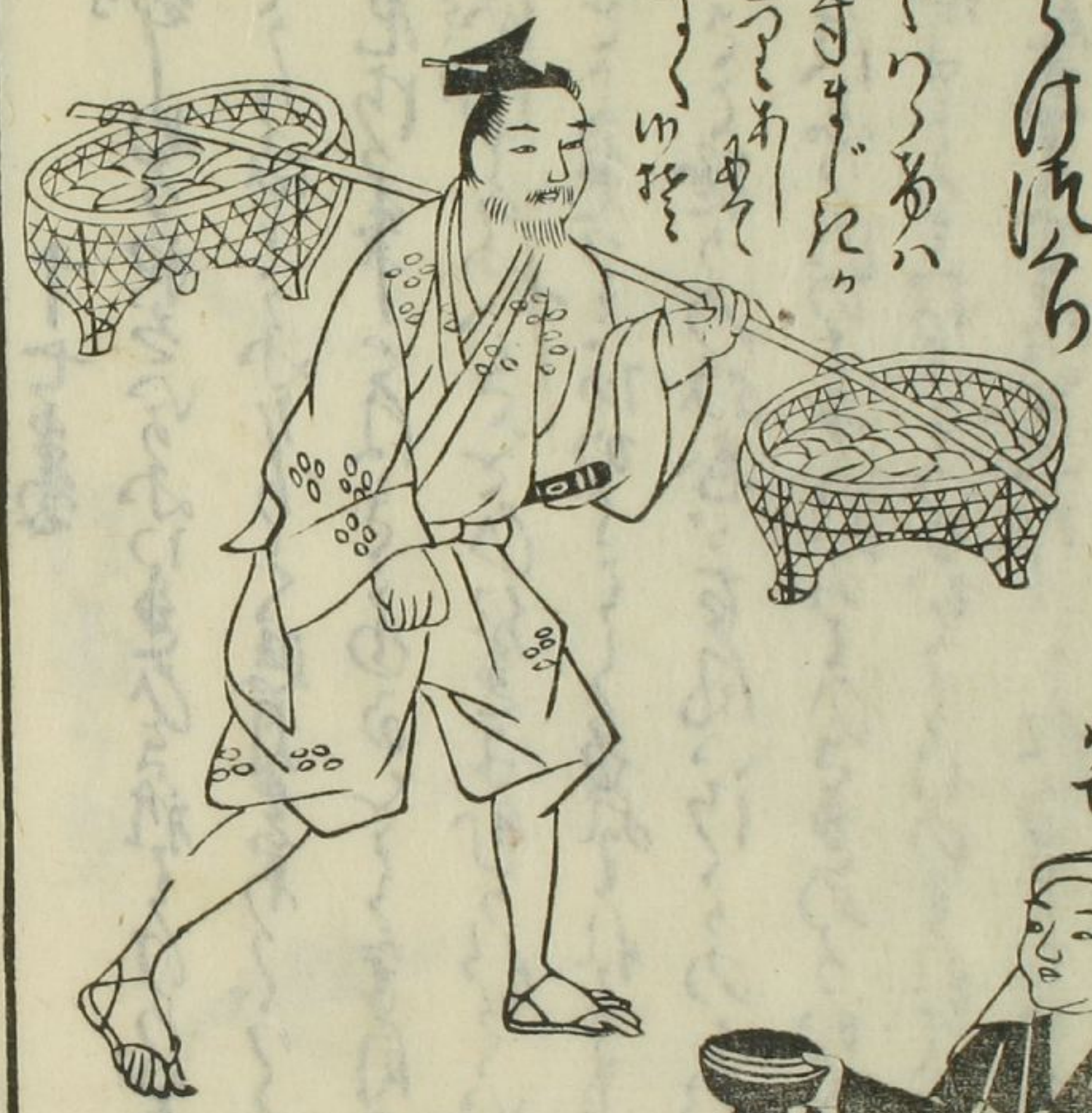
ろくさ
あさけの
い

十七巻

権之者一物を扱ふのふりも此に権をけりたるもしづきなりはき
 けりてはくはとふりりく懸月をあらづつりめしれぬ也かの
 たる事とほそあるとくき同たりやあゆむ事
 候間よめよとひ候まむけいなるもや左の海月
 といふ者よのめくもあはれもはと林よけい
 さて権りの候まむけいなるもはと林よけい
 見り候は志のめくもあはれもはと林よけい
 何と候よとらなむけいなるもあはれもはと林よけい
 を志守れいそけいなるもあはれもはと林よけい
 えくもあはれもはと林よけいなるもあはれもはと林よけい
 らめくもあはれもはと林よけいなるもあはれもはと林よけい
 二一とらなむけいなるもあはれもはと林よけい

かきくけけり

わむつらあひ
まじりたる
かきくけり
やうやく



ひきつらうり

これいぢま
かきく
めせ



十八番

らるひ子そいふらも池やせんらなあがのうけあゆみ
あまてらけりしてらうらやう海みそうけ之内の何さう
こおひよよとあけま一町一町お
おひよよとあけま一町一町お
うやうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
たさひてものありとつむすあうり
おさひあけらうらうらうらうらうらうらうらうら

まじしぢうらり

まじしぢうらり

あまのこ

うらり



初色けさなう

うらり

うらり

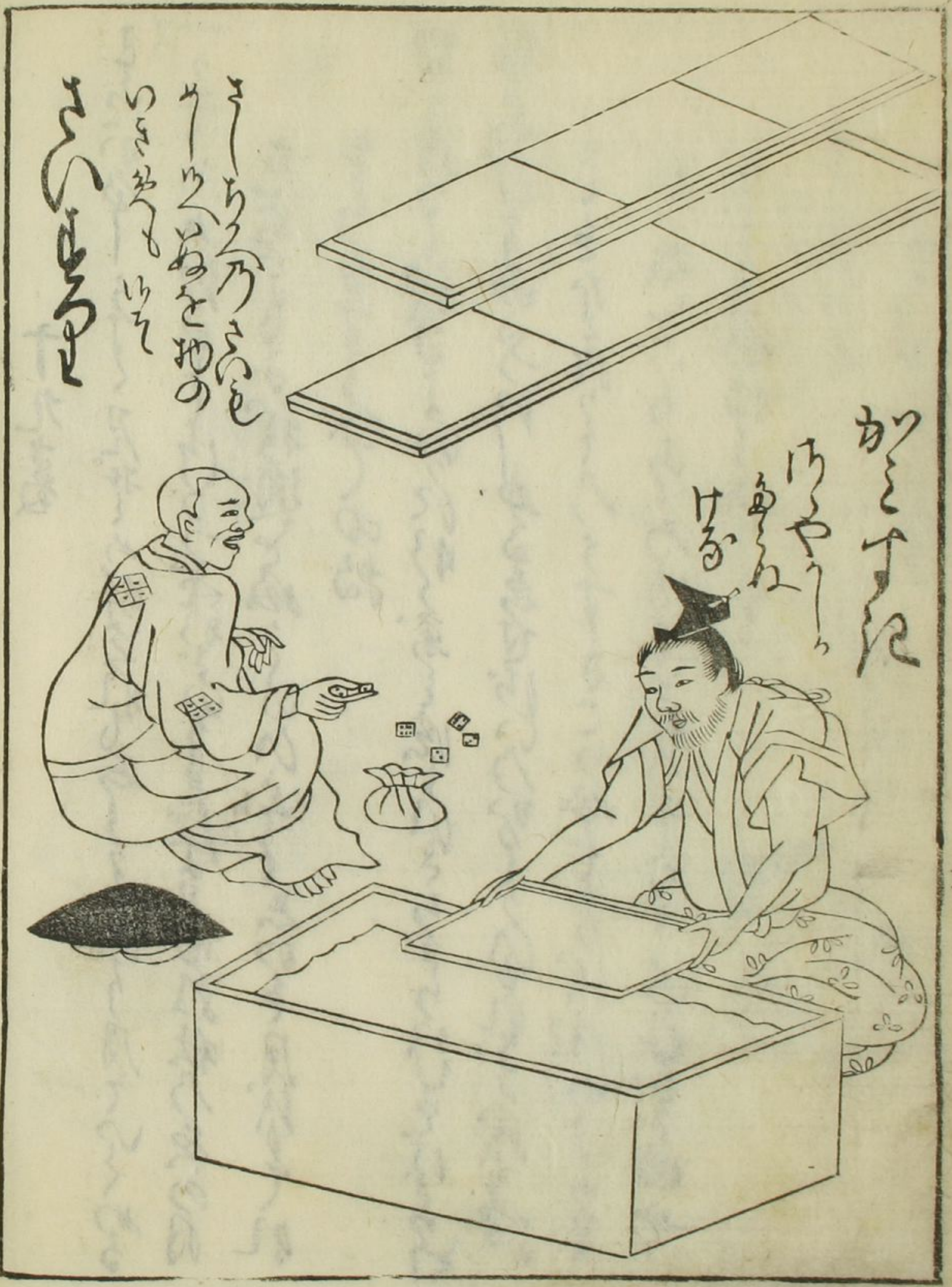
わう海みそり



十九妻

とたかやううとく月夜めはなれまううみまう月をいくわ
一う二うちとたかやううううううううううううううううう
危ちどしは我道とぬういひまううううううううううう
まらちまうううううううううううううううううううう

わうううううううううううううううううううううううう
移るびうううううううううううううううううううううう
こまなうううううううううううううううううううううう
在い始とらあううううううううううううううううううう
まじしぢうらり



かこすじ

けさ
あまね
けさ

きしりくろく
けしりくろく
の
あまね
けさ

二十番

あまねのけしりくろく
あまねのけしりくろく
あまねのけしりくろく
あまねのけしりくろく

あまねのけしりくろく
あまねのけしりくろく
あまねのけしりくろく
あまねのけしりくろく



海へ

木がききで
うたのね
さうくなら
いうと



茶一巻

やうじまふもり一助のまきくんたを井の月影のゆりてや
 ひねるまわぬき月影のゆりてや
 危弁さぬぐさあつたはたかたのまきくんたも
 さうれるまふもり一助のまきくんたを井の月影のゆりてや
 ずんばぬのまきくんたを井の月影のゆりてや
 はたもくくゆりてのゆりてのまきくんたを井の月影のゆりてや
 やうじまふもり一助のまきくんたを井の月影のゆりてや
 くれとくゆりてのまきくんたを井の月影のゆりてや
 けあひぬまふもり一助のまきくんたを井の月影のゆりてや
 こもちもけあひぬまふもり一助のまきくんたを井の月影のゆりてや



